

令和5年度西柴小防災拠点第一回全体会議録

(20230910 書記：小櫃)

日時： 2023年9月3日(日) 10時00分～12時00分

場所： 西柴団地自治会 会議室 (1F大広間、2F・C会議室)

出席者： 54名 <委員数 93名 出席率 59%>

(内訳) ○本部関係(含む：学校再開班、兼務者は除く) 8名 (兼務は2名)

○情報班 (アマチア無線関係者は市イベント出席の為欠席) 9名

○避難者管理班 12名 ○環境衛生班 11名

○食料物資班 8名 ○救護班 6名

<詳細は参加者名簿に記入しました>

打ち合わせ内容

<<目的>>

- ① 拠点運営委員の役割を知る
- ② 11月19日(日) 拠点訓練までに何をするかの確認
班ごとに意見交換を行い発表をする。(メインテーマ)

<<進行>>

1. 主要メンバー紹介 司会者が紹介(名前のみ)

- ① 本部関係、② 各班長 or 副班長 (5班)
イ 情報班 ロ 避難者管理班 ハ 食料物資班
ニ 環境衛生班 ホ 救護班

2. 主要メンバーからの挨拶 司会者より指名

- ① 山田委員長、②池上副委員長、③吉田事務局、
④ 区・金田課長、⑤柴原校長、⑥永島副校長、⑦区・橋之口係長

3. 拠点の役割 司会者から説明

- ① 運営委員とは
委嘱状に同封した「西柴小学校のマニュアル」を参照頂き、
2ページと5～8ページの確認を依頼。
② 昨年度の訓練内容と課題
<※1 配布資料のポイントのみ説明>

4. 各班に分かれての意見交換

<班長が進行、記録係 1名決める>

- ① 自己紹介 (氏名、過去の経験を簡単に紹介) <10分過ぎたら氏名だけの紹介>
② 訓練について意見交換
㊦ 所属になった班の役割について「マニュアル」で理解できたか
㊧ どの様な訓練が必要か <— フリーにトークして班としての意見をまとめる>

5. 各班からの発表 (発表順に記載)

■ 救護班

- 医者・看護師では無いので、どこまでやっていいかが分からない。
○救護班の人は分かる目印があった方が良いのでは？
○「場所確保」の具体的な内容は要確認

■ 環境衛生班

- トイレ → はまっこトイレの設営について
場所の確保（トラロープ）
張り出し → 時間がかかる
人で必要なので住民に声掛け必要
汚物の集約場所の確認
校内トイレの使用禁止 → 表示設置の訓練
- 拠点倉庫
かぎ？
トイレなどの運び出し
- 他
仮設水道（正門の前）
体育館の区分け
拠点開設基準（震度5（強）以上）
ペット対応

■ 食料物資班

1. マニュアルの確認（食料物資班の役割）
 - ・ 照明器具等の作動の確認
照明器具の確認が食料物資班の役割だということを知らなかった。
 - ・ 水道の出水確認等
西柴小学校に受水槽・緊急給水栓があることを確認する
 - ・ 水・食料・毛布等の確保・在庫確認・配給
当避難所は、200人の避難者を想定して備蓄されている。
実際に少ない物資の公平な分け方が難しい（優先順位等）
配布方法のマニュアルは必要か？
 - ・ 被災者の救出活動の支援
2. 防災訓練について
 - ・ 備蓄品の種類・数量を知らせる。方法は、次回の全体会で検討する。
 - ・ 炊飯器の稼働の確認をかねて、取扱訓練の実施をしたい。
お湯を沸かすだけにする。または、炊飯袋を使用し 出来上がりをそのまま配布する。
簡単なマニュアルの作成が必要か？
 - ・ 参加記念品（¥500/1人）を購入し、配布訓練を行う。方法は、次回の全体会で検討する。
@米のおにぎり ビスコ缶 野菜ジュース えい羊羹等
 - ・ 他の訓練の見学もしたいが、難しい。

■ 避難者管理班

- 予め避難者カードを配布しておき避難時に持参して頂くことで受付をスムーズに出来るようにする。
- スマホで受付出来るようなシステムの導入。

- 晴、雨それぞれを想定した受付の場所を決めておく。
- 受付場所までの誘導マニュアルの作成。
- 体育館の区割りは、予め区割りがされているシートを準備しておき、
発災に際に床に敷くだけで区割りが出来るようなものを準備する。
- 避難者を管理するというのは避難者に失礼なので、班名を変更する。
- 避難者の受け入れ時に防災拠点におけるルールやすごし方を記した”ガイド”を
渡して拠点での運営をスムーズにし、避難者にも早く確実に拠点を理解していただく。
- 感染症対策を考えた避難者受け入れ方法
- 避難者カードの記入方法の改善→避難者に番号札と受付カードを渡し、
避難者カードと本人確認を簡単にする。

■ 情報班

- 毎年情報班になった人に加えて、新しく情報班になった人達に接続方法、
機器の使い方を理解して欲しい少しでも操作できる人を増やしたい。
- P2 の仕事の内容が違っている
2 番目の『避難場所の被災状況の把握』は正しい。
他は情報班の範囲外だと思う。
- 訓練日当日の仕事
 - ① 拠点の安全を確認する → 本部に報告 （本部の場所は？）
確認シート（渡辺さん所有）
 - ② 3階倉庫からの情報班の機材ボックスを持ち出す。
 - ③ 内容物の確認 （ラジオ等の機器のテストも必要）
 - ④ 区役所との連絡用の無線電話機器を設置する
 - ⑤ 本部より、拠点開設の宣言が出たことを区役所に無線電話機器で連絡する。
 - ⑥ 公衆電話回線の設置 及びテスト （場所をどこに設置するかは要検討）
本番時は、体育館入り口に設置
 - ⑦ ホワイトボードを使用して、受け取った避難状況・情報の共有。
（今回は行わない）
- 情報班の任期はいつまで （来年の訓練日までではないか？）

■ 本部

- ①本部としての役割
 - ・設置場所（小学校 体育館）
 - ・拠点への集合訓練（責任者）
 - ・運営会議の頻度の検討
- ②はまっこトイレ
 - ・仮設トイレの準備（はまっこトイレ設置まで）
 - ・備蓄品の劣化チェック（食料品以外）
 - ・設営の時間
- ③体育館の収容人数の制限
 - ・構内の動線の確保

④スポーツ広場（津波想定）

- ・収容人数、あり方
- ・ペットの扱い

※ 各班から発表があった事項を基に今年度の訓練内容を考える！！

6. 今後の予定確認

■ 活動名 ■	■ 日 時 ■	■ 集合場所 ■
④ 第一回全体会議	9月3日(日) 10時～12時	本日実施
② 備蓄庫の点検	10月29日(日) 10時～12時	＜西柴小学校 C棟前＞
③ 第二回全体会議	11月5日(日) 10時～12時	＜西柴団地自治会館1F＞ ―＞（訓練内容の確認と各班の訓練準備）
④ 拠点訓練	11月19日(日) 10時～12時	＜西柴小学校 C棟前＞
⑤ 反省会	12月3日(日) 10時～12時	＜西柴団地自治会館1F＞ ―＞（各班から代表者が集まり反省会、次年度活動確認）

＜研修、講習会、会議、見学の紹介＞ 今年度訓練内容を決める参考にする

① 拠点運営方法 研修

7月18日（火） 横浜市民防災センター 2名出席しました。

② 地域防災拠点ブロック連絡会

9月9日（土） 金沢区役所 5名 出席予定

今年度は「金沢区版拠点開設キット」の作成に向けた意見交換、
拠点開設における課題の洗い出しや情報共有。

③ 拠点訓練見学会

10月14日（土） 並木中学校 「ペット同行避難」を実施 2名 申込

7. 閉会（下記※の依頼事項を連絡）

@1 情報連絡方法について 「西柴団地自治会HP」を使って情報発信します。

@2 メール連絡可能な方は西柴団地自治会宛てに「R5年拠点運営委員のメルアド」
のタイトルで本文に氏名を入れて送信ください。

西柴団地自治会メルアド： nisisiba4@yahoo.co.jp

以上

＜※1 配布資料のポイントのみ説明＞の内容

② 昨年度の訓練内容と課題

＜昨年度訓練内容＞

令和5年度 西柴小地域防災拠点訓練 概要

実施日時： 11月19日（日） 10時～12時 参加者： 拠点運営委員 60名程度

＜流れ＞

- ① 運営委員集合人数の確認―> 班ごとに集合 班長 集合を確認
- ② 開設確認―> 副委員長、事務局、各班 副班長
- ③ 開設宣言―> 副委員長より委員長に報告、委員長宣言

- ④ 避難者受付 訓練 受付表
避難者班 2組に（誘導員2名、受付4名（正常者対応3名、感染者対応3名）
避難者役 8名（正常者6名、感染者2名）
※この間に情報班は情報伝達訓練の機器設定
- ⑤ 情報伝達訓練 <金沢区役所との通信>
イ デジタル無線 <情報班>
今回は屋外設置、公衆電話の訓練は可能であれば実施
ロ アマチュア無線
- ⑥ 体育館 避難所 作り
イ 区分け 訓練、 ロ 段ボールベット作成、ハ 体育館wifi接続体験
- ⑥ 全員 校庭に集まり
はまっこトイレの設営と稼働訓練
- ⑦ 備蓄庫の前に集合 閉会の挨拶と講評
- ⑧ 解散

<反省会での主な課題>

- ① デジタル無線取り出し口がB棟2階職員室入口廊下側に取り付けられている為、職員が来ないと設置できない。 <— C棟側に移してほしい。
- ② はまっこトイレ用マンホール表示
校庭の土の中に埋めてあり、ロープで設置個所を表示していたが表示ロープが擦り切れて判らなくなっていた。
<— 子供たちに危険が無いような表示方法を考える。
- ③ はまっこトイレマンホール 開閉弁の作業が大変
改善案として、専用器具があり横浜市で支給を検討していると訓練支援をしてくれた防災ライセンス金沢の方から教えてもらったので支給予定の確認をお願いします。 <—令和5年度に市から配給される事に決定
- ④ 感染者避難想定のお受けの難しさ
- ・ 同時に大人数が避難してきた時の対応
朝比奈小学校での訓練を見学したが、受付方法は理にかなっているが実際の人数が避難した時に対応できるか疑問を持った。
 - ・ 非接触体温計の測定がうまく出来ない
(器具の機種も問題化、外での測定で日差しが問題化)
 - ・ 感染予防グッズでの対応がきつい(暑い等)
 - ・ 一般避難者、感染症可能避難者と分けての受付、
避難経路の設定が難しい。(専門家によるレビューを要望)

終わり